

**1世帯当り年間支出金額
横浜市が生鮮野菜1位
生鮮果実は福島市**

総務省統計局は家計調査をもとに、野菜・果物などの品目別に1世帯当たり年間支出金額・購入数量の都道府県庁所在市および政令指定都市ランキングを集計した（2人以上の世帯、2019〜21年平均）。支出金額トップ5は左表の通り。

生鮮野菜全体では横浜市が1位、東京都区部が2位となり、前回（18〜20年平均）から順位が入替った。横浜市は購入数量でも1位となり、2位以下は新潟市、千葉市、東京都区部、秋田市と続く。また、横浜市や東京都区部では、レタスやキユウリ、トマトなどサラ

ダ野菜の支出額が高い傾向にある。

品目別では、ホウレン草とサツマイモで全国平均を大きく上回る値がみられた。ホウレン草は、支出金額、購入数量ともに盛岡市と秋田市が上位を占め、どちらも全国平均の約1・5倍に。サツマイモは徳島市が1位となり、全国平均の2倍近い値となっている。

生鮮果実全体では、福島市、山形市、秋田市がトップ3となり、前回6位の東京都区部が4位に入った。東京都区部は購入数量では30位となっており、価格高であることがわかる。支出金額と購入数量の上位都市がほぼ同じとなっている品目が多く、大産地が控える地域での消費が盛んであることがうかがえる。

弁当・総菜・サラダなどを含む調理食品の全国平均支出金額は、前回より5648円多い13万3585円となり、コロナ下の内食需要増加が反映される結果となった。調理食品全体では、東京都区部が前回に続きトップ。サラダでは、川崎市が前回の8位から今回1位に。同市は調理食品でも、前回13位から今回は3位へと大幅に順位を上げています。